

イクシスLNGプロジェクトは、当社が日本企業としては初めて、オペレーターとして開発作業を推進する大型LNGプロジェクトです。生産量や収益の増加をもたらす、グローバルに活躍する人材の確保・育成を促進するプロジェクトとして、当社の成長目標である「中長期ビジョン」を達成するための大きな原動力となっています。生産されるLNGの7割相当が日本に向けて供給される予定であり、日本の長期的かつ安定的なエネルギーの確保に大きく貢献します。

現在、オーストラリア北部準州のダーウィンでは陸上ガス液化プラントの建設が、また、世

界各国では各種生産施設などの建設作業が進んでおり、2015年3月には開発作業の進捗率約68%を達成しました。イクシスLNGプロジェクトは、陸上ガス液化プラントの建設が行われている北部準州を中心に地元企業のプロジェクトへの参入機会や雇用機会を提供しています。昨年、ダーウィンの陸上ガス液化プラントの建設作業に従事した作業員の約6割が現地出身の方々でした。また、オーストラリア国内における契約調達の累計金額は130億豪ドルを超える見込みで、その半分以上が北部準州を拠点とする企業との取引に充てられています。

共に創る エネルギーと 地域の未来

当社の事業の核に位置付けられているイクシスLNGプロジェクトは、40年という長期にわたり、日本への安定したエネルギー供給、そしてオーストラリアの地域社会の発展に貢献します。

浚渫作業に関する
ステークホルダーとの対話

130回以上

ダーウィン湾内における
環境影響現地調査

200回以上

プロジェクトに従事した
先住民

600名以上

浚渫作業に関する
地域への配布物

2,000枚以上

ダーウィン湾周辺の
マングローブ調査で
新たに記録された生物

80種

陸上施設建設に携わった
地元企業

600社以上

地域の声をプロジェクトにいかして

イクシスLNGプロジェクトでは、ダーウィン湾内において、オーストラリア国内でも大規模な浚渫(しゅんせつ)作業を実施しました。浚渫作業は、湾内を往来するLNG輸送船などの船舶が安全に航行するために十分な水深を確保する目的で実施したもので、海底のおよそ1,600万立方メートルの土砂や岩を取り除きました。浚渫作業は、2012年8月に開始し、2014年7月に計画どおり完了しました。

ダーウィン湾は、釣りやボートなど地元住民に人気のレジャースポットであり、また豊かな生態系を保有するため、浚渫作業の実施に当たっては、地域社会に十分配慮し、ステークホルダーとのコミュニケーションを通じ信頼関係の構築に努めました。また、地域住民や政府機関などの関心も高いため、正確かつタイムリーな情報を提供することが重要でした。

環境影響評価報告書^{※1}(EIS)を公開し、パブリックコメントを募集するなど、プロジェクトの初期段階から計画案についての説明を行い、ステークホルダーの意見を取り入れるよう努めました。EISでは、湾内の極めて固い岩盤を除去するために、当初は、従来から広く使われてい

る、掘削や発破を伴う除去方法を提案していました。しかし、ステークホルダーから寄せられた意見などを考慮した結果、海底を削るための特殊なカッターを搭載した世界最先端の浚渫船を用いる、より環境負荷の低い代替案を採用することにしました。

更に、浚渫作業期間を通じて、地域住民のための公開説明会に加え、政府機関や規制当局、関連団体、業界など様々なステークホルダーとの対話の場を設け、作業内容や進捗状況について説明を行いました。加えて、ラジオやテレビを用いた宣伝活動、掲示板やニュースレターなどを利用した情報提供を行い、またフリーダイヤルを活用し、地域住民からの意見を受け付けました。このような丁寧な情報提供や対話の努力が実り、浚渫作業期間中に寄せられた浚渫に関連する地域住民からの問合せはわずか2件でした。

こうしたステークホルダーとの信頼関係にも支えられ、地域社会とダーウィン湾を安全に共有しつつ、周辺の生態系へも大きな影響を与えことなく、浚渫作業を無事に完了させることができました。

※1 環境影響評価報告書：
申請している活動が環境に与える影響及び、それらの影響を回避、最小化、又は軽減するための計画案をまとめた文書。オーストラリアでは規制当局から開発プロジェクト実施の承認を得るために使用される

Case Study

イクシスLNGプロジェクトによる地域社会との対話のアプローチに対して、北部準州のアダム・ジャイルズ首相は「コミュニティと積極的に協力しようとするINPEXの姿勢を見習うべきです」と述べています。



イクシス LNG プロジェクト

イクシスガス・コンデンセート田は、西オーストラリア州の沖合約200キロに位置し、オーストラリアで発見されたコンデンセート(ガス田から液体分として採取される原油の一種)を伴うガス田としては、屈指の規模を誇ります。現在、沖合に設置される生産処理施設や、北部準州のダーウィン近郊の陸上ガス液化プラント、また、これらをつなぐ全長889キロのガス輸送パイプラインの建設が着実に進んでいます。生産時には、年間890万トンの液化天然ガス、年間160万トンのLPG(液化石油ガス)に加え、ピーク時には日量約10万バレルのコンデンセートが生産される見通しです。

周辺環境への影響を適切に管理

イクシスLNGプロジェクトでは、建設作業を進めている北部準州の豊かな環境を保全し、環境に与える影響を最小限にとどめるよう努めています。その一環として、浚渫作業の実施期間を通じて、作業がダーウィン湾沿岸の周辺環境に与える影響を監視するための包括的な環境モニタリングプログラムを実施しました。

湾内の水質や沿岸地帯のマングローブ、そして周辺地域に生息するサンゴやイルカなどの海洋生態系などについて多岐にわたる調査を行い、その結果を政府機関、規制当局、研究者、業界他社などのステークホルダーと共有し、100本以上にのぼる報告書として公開しています。


調査結果では、ダーウィン湾における浚渫作業による周辺環境への影響は当初計画で想定さ

れた範囲内であることが確認されました。また調査により、ダーウィン湾周辺に様々な生物が生息していることが新たに確認されました。これらの貴重なデータは、ダーウィン湾の生態系に関わる知見の向上にも寄与しました。

また本プロジェクトでは、独立した顧問委員会である、イクシスLNGプロジェクト浚渫専門家委員会を設置しました。この委員会は、オーストラリア国内外で著名な環境分野の専門家9名から構成され、モニタリングプログラムの中身やその結果について、プロジェクトや政府機関に対し、第三者の視点でアドバイスを行います。このように、モニタリングプログラムの透明性や独立性を保つことは、浚渫作業に対するステークホルダーの信用を高めることにもつながりました。

Case Study

イクシスLNGプロジェクトが実施した浚渫作業では、その地域社会や周辺環境に配慮した取組が評価され、オーストラリア石油探鉱開発協会(APPEA)より、2014年のAPPEA HSE表彰の環境部門で総合アワードと業界アワードを受賞しました。



受賞メンバー



ダイバーによるダーウィン湾のサンゴ調査



ダーウィン湾周辺のマングローブ調査



ダーウィン湾内での水質調査



マングローブ内での落ち葉採取

地域経済への貢献

当社は、イクシスLNGプロジェクトを通じて、長期にわたり地域社会の発展に貢献できると考えています。プロジェクトを進めるに当たり、操業地域における熟練した労働力やサプライチェーンの確保は重要課題であり、現地雇用や地元企業の活用を通じて地域社会の能力開発に貢献することは、当社そして地域社会にとっても有益であると考えます。これは、北部準州の人口の3割近くを占めるオーストラリアの地域先住民のコミュニティにとっても重要な課題です。本プロジェクトでは、地元企業や先住民が経営する企業を積極的に活用し、地域の人材育成にも力を入れており、北部準州ダーウィンを中心に現地雇用や地元企業の活用において成果を上げています。(本稿下欄参照)

また本プロジェクトでは、地元の先住民ビジネスをサポートし、その事業主としての能力開発を後押しすることを目的に、2014年、北部準州商工会議所及び北部準州先住民ビジネスネットワーク^{※2}と提携を行いました。この提携を通じ、地元の先住民企業に対し、情報やサービスの提供を行い、本プロジェクトのような大規模事業に参画する際に必要となる能力の強化に向けた支援を行っています。また、このネット

ワークに加盟している先住民企業のために、商工会議所の年会費の一部を負担することにより、これらの企業が職場での安全衛生研修やビジネス交流会など幅広いサービスを受けられるよう支援しています。

地域と共に発展する存在へ

40年という長期にわたり、本プロジェクトを着実に推進するためには、地域社会と共存することが大切です。ステークホルダーとの信頼関係は、本プロジェクトが地域社会に受け入れられることにつながり、本プロジェクトを成功に導きます。また、本プロジェクトの成功は、当社の事業の核である天然ガス供給のサプライチェーンを強化すると共に、グローバル企業としての成長を後押しし、「中長期ビジョン」に掲げた成長目標を達成するための鍵となります。

イクシスLNGプロジェクトは、日本へのエネルギー安定供給に貢献するだけでなく、操業地域であるオーストラリアの地域社会や経済に対し、長期にわたり価値をもたらす、極めて大きな役目を担っています。当社事業の成長と、地域社会の持続可能な発展の両立を目指し、ステークホルダーと共に事業を推進していきます。

※2 北部準州先住民ビジネスネットワーク：
2009年に設立され、北部準州において先住民企業のビジネス支援、サービス提供、政策の提言・助言、ビジネス交流などを行っている

Case Study

ダーウィンを拠点とするブラッド・ロー氏の事業は、イクシスLNGプロジェクトにより契約を獲得した先住民企業の一例です。プロジェクトに必要な共用車両を提供しているバジェット社と契約し、車両の整備や修理サービスを提供しています。バジェット社との取引のきっかけは、プロジェクトが開催したビジネス交流会でした。ロー氏とバジェット社の関係は非常に順調であり、今では本プロジェクト以外で使用される車両についても同氏に任せられるようになりました。

ブラッド・ロー氏



現地雇用

- ・陸上ガス液化プラント建設に携わった作業員5,000名強のうち約6割が現地雇用(2014年)
- ・600名以上の先住民がプロジェクトに従事^{※3}
- ・200名以上の先住民に研修を実施し、このうち90名以上がプロジェクトに従事^{※3}

地元企業の活用

- ・北部準州を拠点とする企業600社以上に対し、陸上施設建設に関わる1,100件以上の契約を締結^{※3}
- ・49社の先住民企業に対し、180件以上の契約を締結^{※3}

※3 2012年のプロジェクト開始から2014年末までの累計